

在宅医療・介護多職種連携協議会 研修部会 ～報告～

目 的

在宅医療に係る多職種連携の推進のための研修体制について検討する。

○顔の見える関係会議や在宅医療研修の内容について検討

○その他の研修(各団体主催研修会の連携・調整など)について検討

＜令和3年度＞部会内容

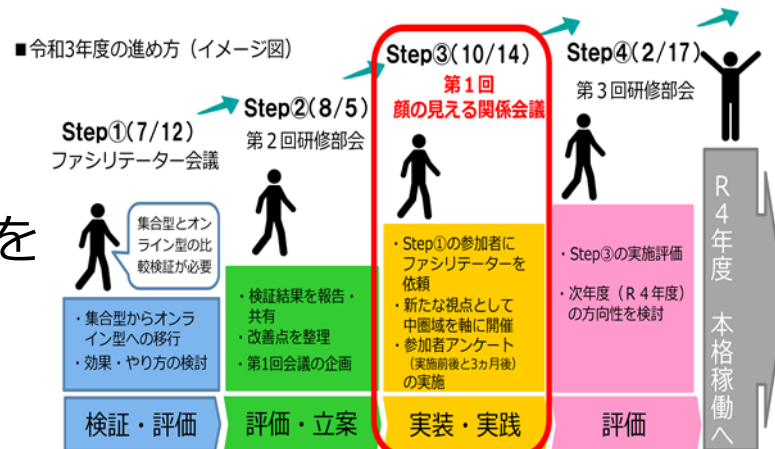
第3回部会

オンライン会議
(令和4年2月17日)

- 1 議事
 - ・今年度実施した顔の見える関係会議報告
 - ・次年度の顔の見える関係会議の方向性
- 2 報告
 - ・意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング）進捗
 - ・令和3年度各職能団体における研修実施報告

<議事> 今年度実施した顔の見える関係会議報告

今年度は、感染症の状況によらず開催できる
「オンライン」を活用した開催を試み、
多職種連携への効果が得られるかの検証を
丁寧に行いながら、第1回顔の見える関係会議を
開催しました。



○日時：令和3年10月14日（木）午後7時～9時

○参加者 市内の医療職・介護職

○規 模 **70名 1グループ5～6名**×12グループ
中圏域（身近な連携の単位）を意識したグループ分け

○周 知 在宅医療に携わる事業所を中心に職能団体を通じて周知

○テーマ：

『コロナ禍での多職種連携～明日につながる取り組み～』

○オンライン顔会議だからこそ行った工夫点：

- ・会議資料・Web会議ルール・Zoom操作説明書等を参加者に**事前送付**
- ・オンラインに不慣れな方を対象に、会議前に**オンラインサポートタイム**を設ける
- ・アイスブレイクや雑談の時間を重要視し、**工程時間に余裕**を持たせる
- ・進行役・書記は、効果検証のためファシリテーター会議に参加している研修部会員やファシリテーター経験者が担当
- ・オンライン上での進行の難しさから、**進行役をサポートする役割『サブ』役**を設ける
- ・書記の負担軽減のために**記録用紙（フォーマット）**を活用



■顔の見える関係会議・評価アンケート報告

今年度は、感染症流行の影響を受けずに開催できる「オンライン」を活用して顔の見える関係会議を実施したため、参加者を対象に、アンケート調査（参加前、参加直後、3ヶ月後）を行い、**多職種連携への効果**を検証しました。

種類	対象 * 研修部会員・ファリシテーターは除く	回答期間
■ 参加前	顔会議に参加した医療職・介護職 46名（回答率100%）	令和3年10月8日～13日（顔会議前日）
■ 参加直後		令和3年10月14日（顔会議終了後）～19日
■ 参加3ヶ月後		令和4年1月5日～20日

■方法：Googleフォームを用いた 記名式アンケート方式

■内容：

<顔会議への参加が及ぼす効果>

○他職種への理解・連携の推進

- （視点1：意識の継続）他職種と連携しやすくなったか
- （視点2：意識の継続）医療職・介護職間の敷居は下がったか
- （視点3：行動へ）他職種への相談につながったか

○オンライン顔会議への参加が、 その後のオンライン活用への後押しとなるか

- （視点4：行動へ）オンライン活用につながったか

<顔会議へのご意見・感想等>

令和3年度第1回顔の見える関係会議★評価アンケート③（参加3ヶ月後）

顔の見える関係会議（10/14）に参加いただきました皆様、ご無沙汰しております。
顔会議から3ヶ月後の多職種連携への効果を確認させていただきたく、お忙しい所恐縮ですが、アンケートへのご回答をお願い致します。（全23問、5分程度）
★回答期限：1月13日（木）まで
★お問い合わせ先：柏市地域医療推進課（電話04-7197-1510）

kswehikiryoy1@gmail.com（共有なし）
アカウントを切り替える

*必須

氏名

回答を入力

この質問は必須です

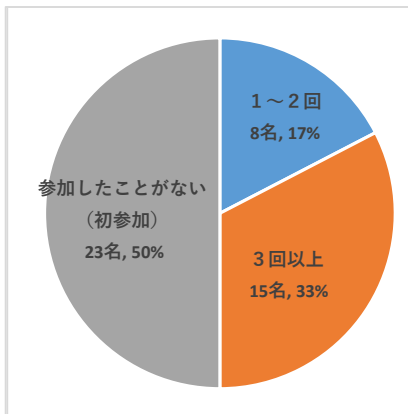
<参考> アンケート対象者属性

顔会議参加者数46名（うち初参加23名・50%）

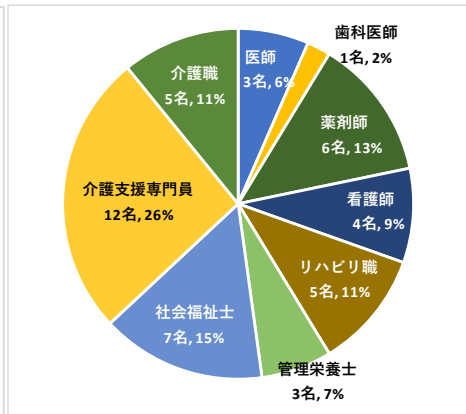
（研修部会員・ファシリテーター経験者24名を除く）

- <特徴>
- 顔会議への初参加者が半数
 - 様々な事業所・職種が参加
 - 市内全域から万遍なく参加
 - オンライン活用経験に差がある

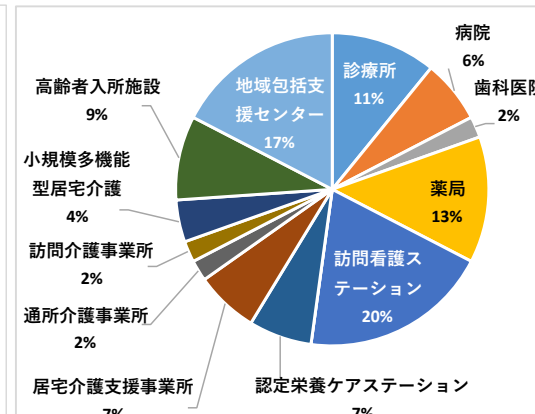
【顔会議参加経験】



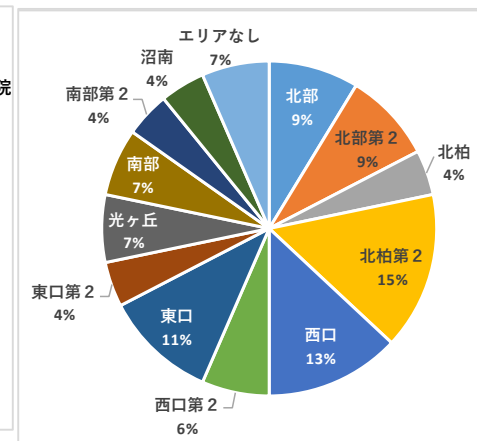
【職種別割合】



【事業所種別割合】



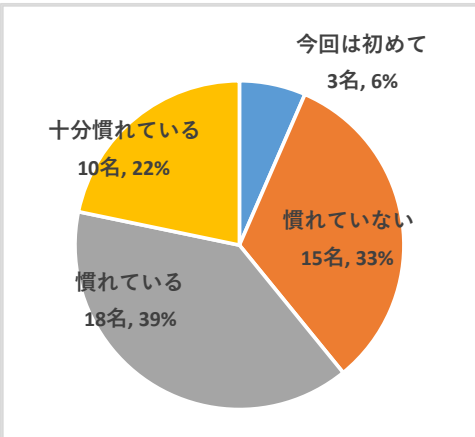
【事業所エリア別割合】



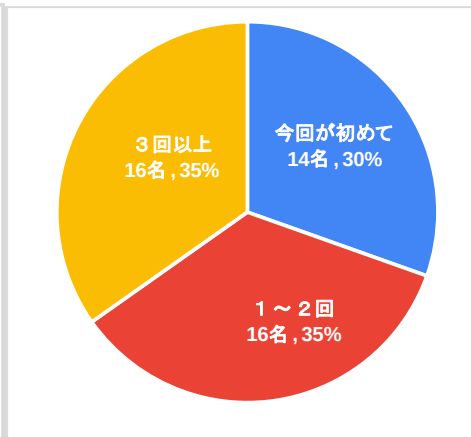
医療系22名（医師・歯科医師・薬剤師・看護師・リハビリ職・管理栄養士）
介護系24名（社会福祉士（包括含む）・介護支援専門員（ケアマネ）・介護職）

■ オンライン活用状況（申込・■参加前アンケート結果より一部抜粋）

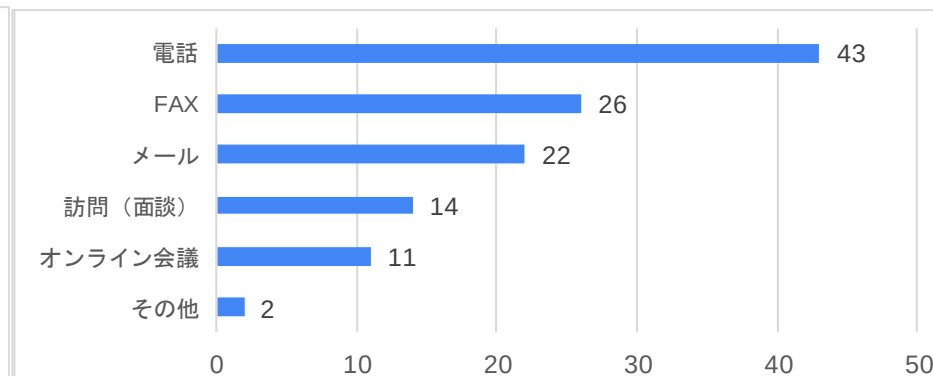
【オンライン会議参加経験】



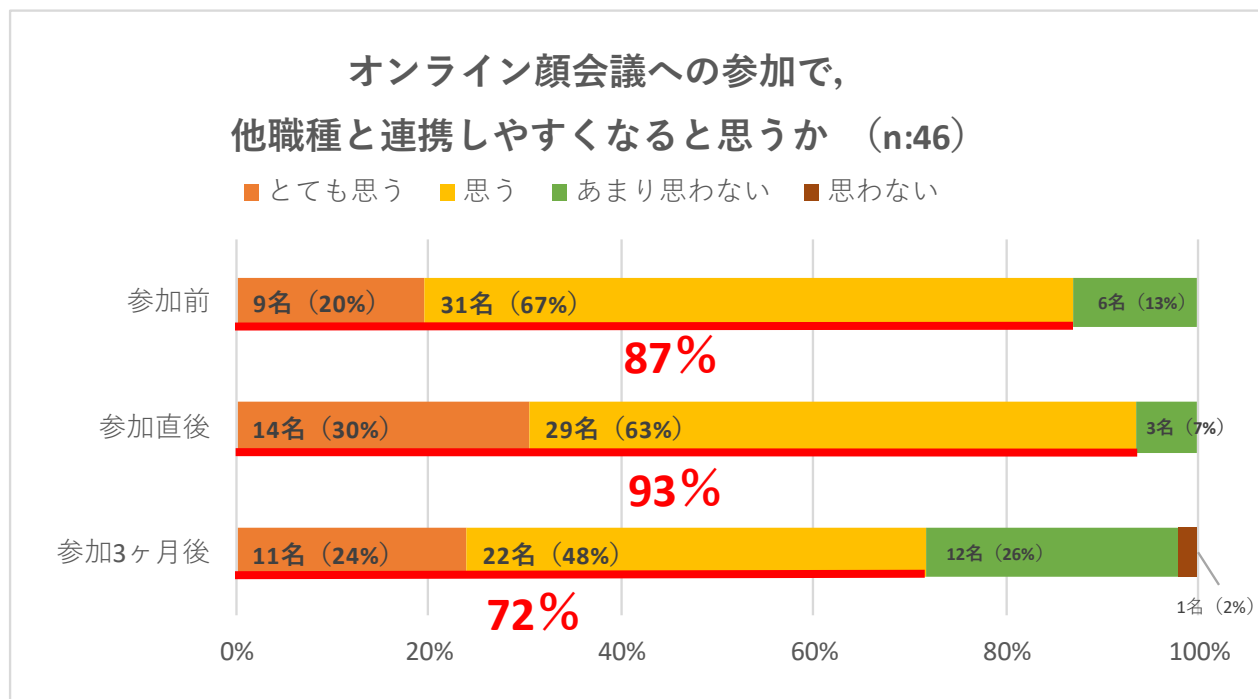
【オンライングループワーク参加経験】



【多職種と連携する手段（主な3つ）】



【視点1：意識の継続】（顔会議への参加により）他職種と連携しやすくなったか



■ 参加3ヶ月後（n:46）

顔会議に参加したことで連携しやすくなったと
「とても思う」「思う」と72%（33名）が回答

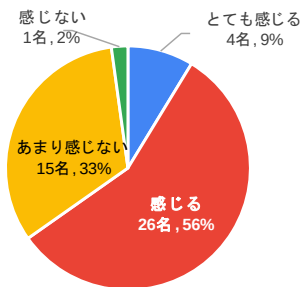
★「あまり思わない」「思わない」と回答した13名
顔会議参加経験：初参加者8名，経験者5名
理由：共通の利用者がいない，相談の機会がない等（8）
参加前と変化がない（2）
グループメンバーがすでに顔見知りだった（1）
つながりがない（1）

【意識の継続】 3ヶ月が経過しても，参加者の7割（33名）が，
顔会議に参加したことで，参加前より日頃の業務で他職種と連携しやすくなったと回答
→顔会議への参加が，多職種連携への意識づけとなり，時間を経過しても維持されている

【視点2：意識の継続】（顔会議への参加により）医療職・介護職間の敷居は下がったか

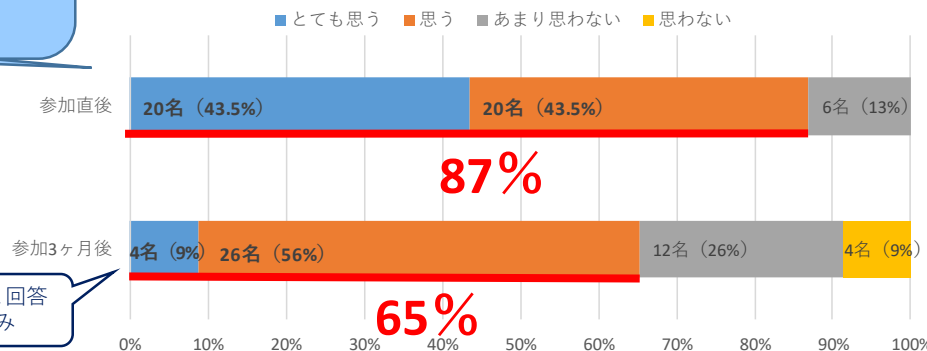
■参加前（n:46）

問3 日頃の業務において、医療職・介護職間の敷居を感じることがありますか



オンライン顔会議に参加して
医療職・介護職間の敷居を
下げることができると
「とても思う」「思う」と回答
87%

顔会議への参加により、
医療職・介護職間の敷居を下げると思うか
(n:46)



「とても思う」と回答
：経験者4名のみ

■参加3ヶ月後（n:46）

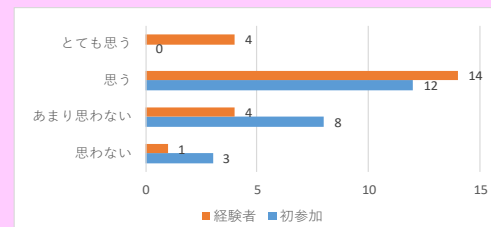
顔会議への参加により、医療職・介護職間の敷居を下げる
ことができます

「とても思う」「思う」と**65%（30名）**が回答

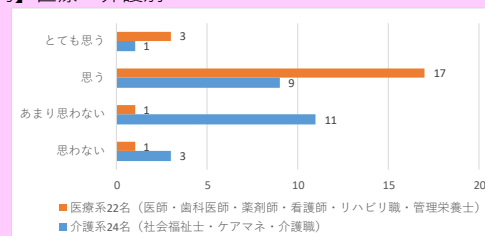
★「あまり思わない」「思わない」と回答した16名
顔会議参加経験別：初参加者11名，経験者5名

理由：コロナ禍で機会がなかった、連携する機会がなくてわからない
参加前と変わらない、普段から知っている方たちだった
顔見知りが増えても、どのように連携すれば良いかわからない
グループ内の敷居は下がったが1回の参加では変わらない 等

【別掲】顔会議参加経験別



【別掲】医療・介護別



【意識の継続】

3ヶ月が経過しても、参加者の約7割（30名）が、
顔会議参加により、医療職・介護職間の敷居が下げることが
できると回答（初参加者・介護系の回答が低い現状）

→顔会議への参加が、医療職・介護職間の敷居を下げる
一助となっている

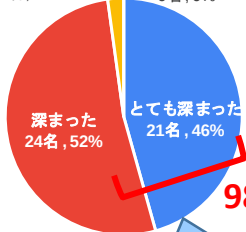
（初参加者の敷居，介護系が医療系に感じる敷居を下げる対策が必要）

【視点3：意識変容→行動へ】（顔会議に参加により）他職種への相談につながったか

■参加直後（n:46）

問3 顔会議に参加したことで、他職種の仕事内容や役割への理解が深まりましたか

あまり深まらなかった 1名, 2%
深まらなかった 0名, 0%



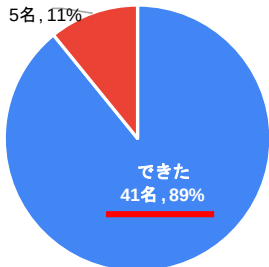
98%

オンライン顔会議に参加して、他職種の役割への理解が深まったと「とても思う」「思う」と回答

98%

問5 顔会議に参加して、新たに相談したい人（職種）ができましたか

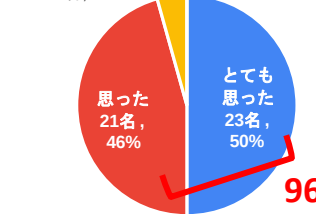
できない 5名, 11%



98%

問6 顔会議に参加したことで、自分の職種で解決できない時（困った時）に他職種に相談してみようと思いましたが

あまり思わなかった 2名, 4%
思わなかった 0名, 0%



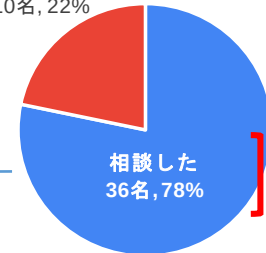
96%

■参加3ヶ月後（n:46）

【参加3ヶ月後】「相談した」36名中**35名**は、【参加直後】問5で「（新たに相談したい人（職種）が）できた」と回答

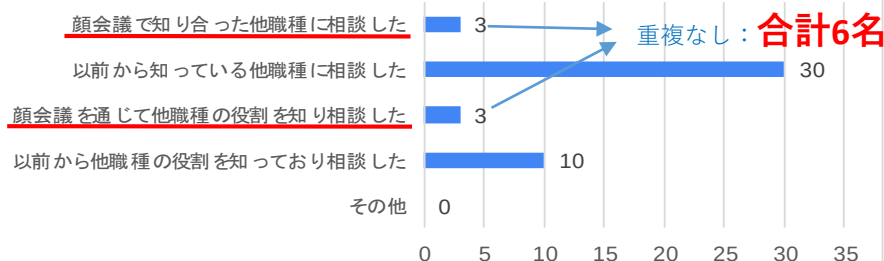
問1 顔会議から3ヶ月の間に、日頃の業務において、他職種に相談しましたか？

相談しなかった 10名, 22%



78%

問2 問1で「相談した」と回答した方に伺います。あてはまる項目を選択してください。（複数回答可）N:36

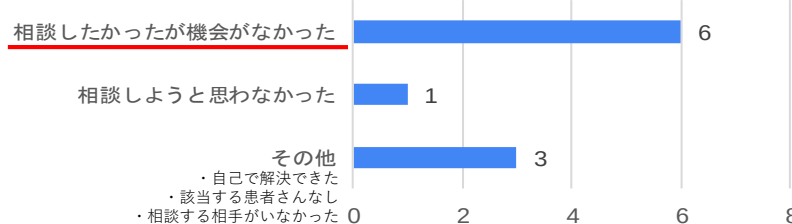


- ★「顔会議で知り合った他職種に相談した」3名→**3名とも初参加者**
- ★「顔会議を通じて他職種の役割を知り相談した」3名→**1名が初参加者**

【行動へ】

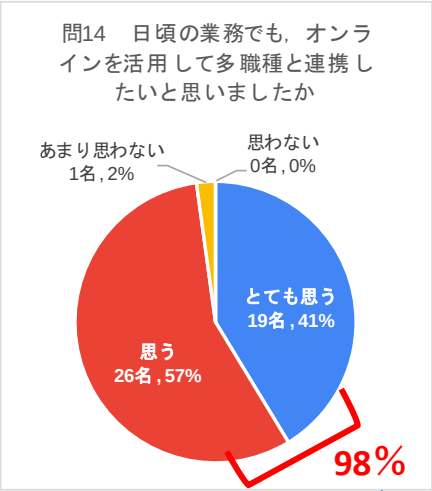
参加者の約8割（36名）は、日頃の業務で他職種への相談につながっている。そのうち、**顔会議を通じて相談につながった方が6名（初参加者4名）だった**
→顔会議への参加が、他職種の役割の理解を深め、新たな相談（行動）につながっている

問3 問1で「相談しなかった」と回答した方に伺います。あてはまる項目を選択してください（複数回答可）N:10

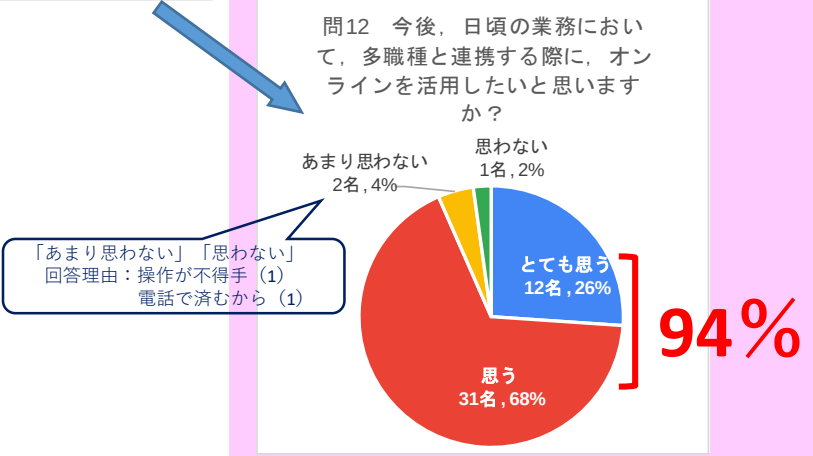
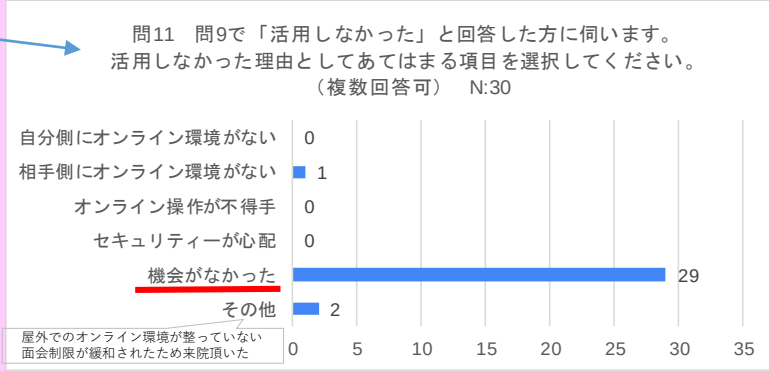
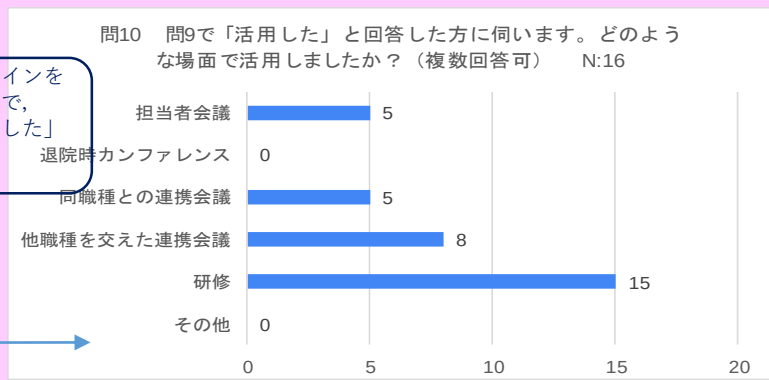
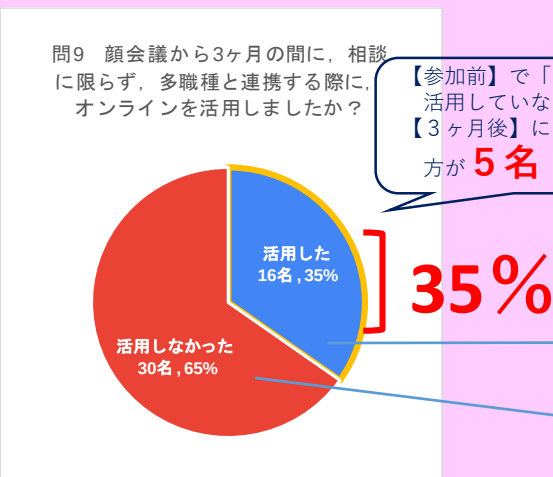


【視点4：意識変容→行動へ】（オンライン顔会議への参加により）オンライン活用につながったか

■参加直後（n:46）



■参加3ヶ月後（n:46）



★「活用しなかった」方のほとんどは、「機会がなかった」と回答

【行動へ】

- 参加者の約4割（16名）が多職種連携でオンラインを活用しており、そのうち顔会議前はオンラインを活用していなかったが活用した方が5名だった
 - 3ヶ月が経過しても、参加者の9割（43名）が「今後、多職種連携でオンラインを活用したい」と回答
- オンライン顔会議への参加が、オンラインの効果を確認する機会となり、今後の活用への動機づけになっている

<顔会議への参加が及ぼす効果>

○他職種への理解・連携の推進

(視点1：意識の継続) 他職種と連携しやすくなったか

(視点2：意識の継続) 医療職・介護職間の敷居は下がったか

(視点3：行動へ) 他職種への相談につながったか

○オンライン顔会議への参加が、

その後のオンライン活用への後押しとなるか

(視点4：行動へ) オンライン活用につながったか



顔会議評価アンケート結果より



【まとめ】

○顔会議への参加が、

- ・多職種連携への意識づけとなり、時間を経過しても維持されている
- ・医療職・介護職間の敷居を下げの一助となっている
- ・他職種の役割の理解を深め、新たな相談（行動）につながっている

○オンライン顔会議への参加が、

オンラインの効果を確認する機会となり、今後の活用への動機づけになっている

**⇒今年度実施したオンラインを活用した顔会議は、
多職種連携の推進、およびその後のオンライン活用につながる
効果があった。**

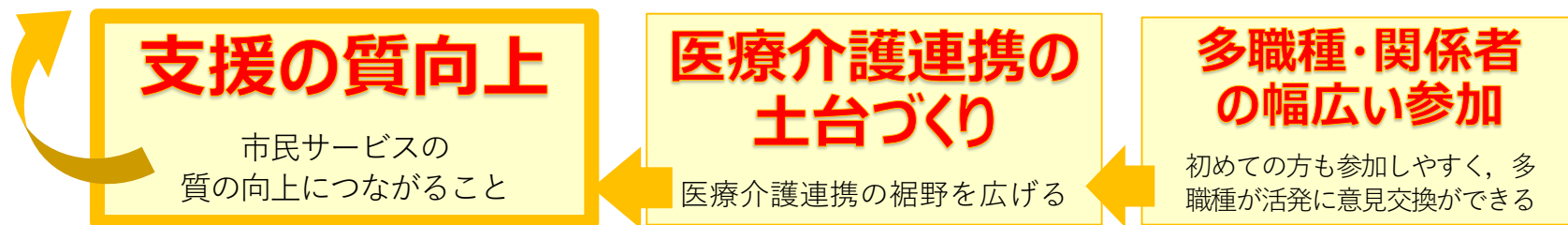
<議事> 次年度の顔の見える関係会議の方向性の検討

■ 顔の見える関係会議の目的

柏プロジェクトの象徴的な会議

「顔の見える関係会議」

【目的】 顔の見える関係づくりを推進し、医療介護連携体制を構築する



■ 顔の見える関係会議評価アンケートより

- 顔会議への参加は、多職種連携に効果がある（オンラインでも同様の効果を確認）
- 市域での開催には、新たなつながりや幅広い視点・気づきを求めており、
エリア毎での開催には、普段連携する機会の多い方々との関係構築やネットワークづくりを求めている



次年度（令和4年度）以降の顔会議を、多職種の参加（活発な意見交換）・多職種連携の土台づくり（裾野を広げる）に加えて、**支援の質向上（市民サービスの質向上・満足度向上）**につながるように**発展**させるために、目的や役割を整理した上での開催について、第3回部会で検討しました。

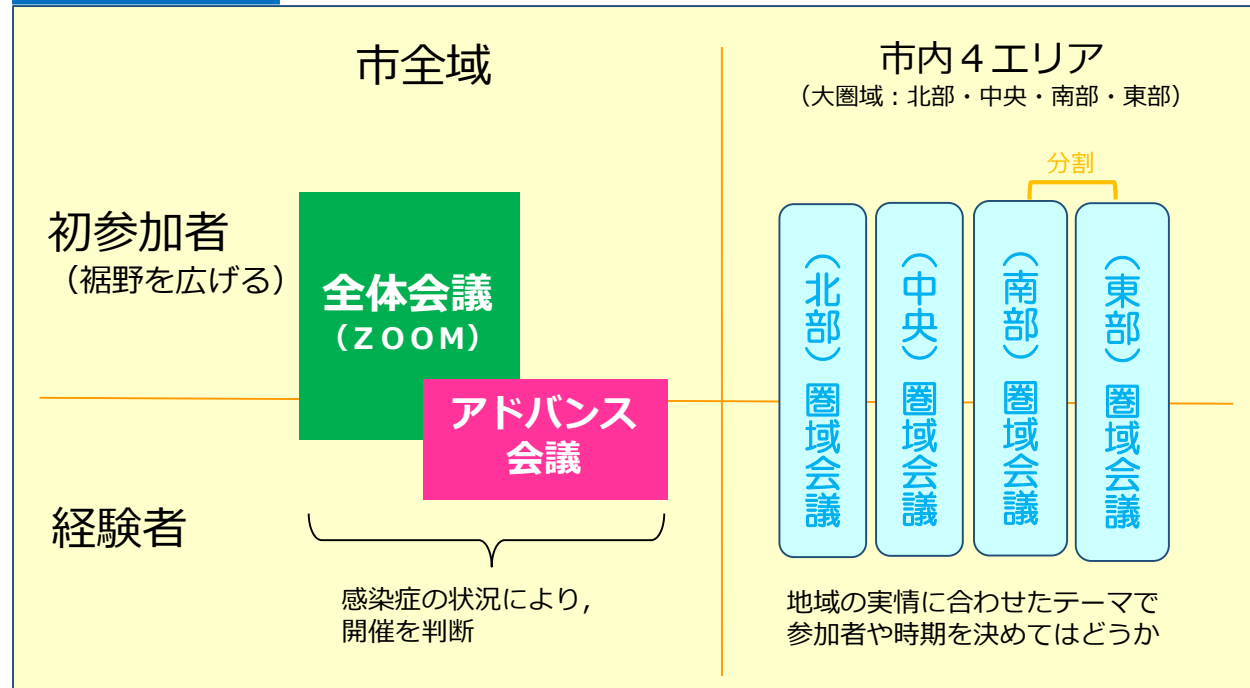
■次年度の顔の見える関係会議（事務局案）

<会議の目的や役割に応じて整理した事務局案>

- **全体会議**：医療介護職連携の裾野を広げる（初参加者を増やす）ことを目的に，市全域を対象に，共通するトピックをテーマに開催（柏プロジェクトを周知する場としての意味合いを持たせる）
- **アドバンス会議**：柏市内の課題に対しての対応策・ルールづくりの検討を目的に開催
- **圏域会議**：実際の業務連携につながることを目的に，日常生活圏域（市内7圏域）を軸とするが，次年度は，地域性を考慮し南部エリアを南部と東部に分割した形（北部・中央・南部・東部）に変更し，地域の実情に合わせた形での開催（包括との協働）

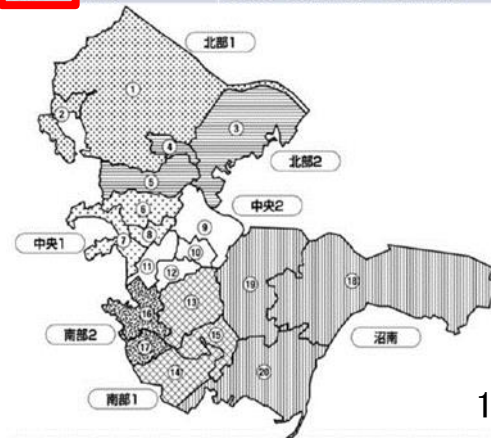
令和4年度

* 各会議前には，ファシリター会議を実施



<参考> 柏市における圏域

市域	大圏域 * 日常生活圏域	中圏域 * 中学校区
柏市	北部	北部1 ①田中 ②西原
	北部2	③富勢 ④松葉 ⑤高田・松ヶ崎
	中央	中央1 ⑥豊四季台 ⑦新富 ⑧旭町
	中央2	⑨柏中央 ⑩新田原 ⑪富里 ⑫永楽台
	南部	南部1 ⑬増尾 ⑭南部 ⑮藤心
	南部2	⑯光ヶ丘 ⑰酒井根
	東部	沼南 ⑱手賀 ⑲風早北部 ⑳風早南部



■ 次年度の顔の見える関係会議の方向性（GWでいただいたご意見まとめ）

協議内容	ご意見
①事務局案へのご意見	■ 事務局案 ○ 会議の目的役割を分けることは賛成、概ね事務局案でいい ■ 開催方法 ○ ゆっくりと話ができるので、感染が収束してもオンラインを残してほしい ○ 事務局の負担が大きかったと思うが、オンラインを継続できればいい ○ コロナ禍でオンラインに慣れてきている。今後も活用していきたい ○ オンラインの場合、参加人数等の規模が課題 ○ 感染症が落ち着けば、すべてオンラインではなく一部参集できるようになるとよい ■ 圏域会議 ○ 東部（沼南地域）は独特の地域性があるので南部と分けることはよく、利点も多い ○ 東部は参加者が集まるか。担当包括1つなので負担が大きくなるのではと心配 ○ 4エリアより細かいエリアだと仕事につながってよい ○ エリアであがった課題を全体会議のテーマにする等、連動できるとよい ■ 全体会議 ○ 全体会議はなるべく初参加の方に多く来てもらうようにするとよい ■ アドバンス会議 ○ ルール決めなどの内容であれば、顔を合わせて実施したい（人数を少なくして参集） ○ オンラインという方法も残して、最後に議事を詰める際に参集 ○ 課題解決やルール作りが必要になった際に開催でもいいのではないかと ■ その他 ○ 隣接している市との連携もできると仕事に直結しやすい ○ オンラインでも多くの人と話せるように、途中でメンバーチェンジをするとよい
②感染拡大時の開催方法	○ 感染拡大時は圏域内でも参集できなくなるので、規模が小さい圏域会議を優先 ○ オンラインであれば回数を減らさなくてもいいのではないかと ○ 感染拡大中で事務局側・参加者の業務が繁忙となった場合は回数を減らしてもよい
③その他	○ 感染症流行時は、コロナに関するテーマは随時あってほしい（職種毎のノウハウの共有） ○ オンラインではファシリテーターの役割は重要。ある程度の負担は仕方がない ○ 事前資料があると意見をまとめて参加しやすいので、参集になっても続けてほしい ○ WEB会議ルール、記録用紙（フォーマット）、事前説明は継続してほしい ○ 書記の役割も丁寧なサポートがあるので案外できる。書記は慣れていないと負担が大きい ○ 書記の役割があると発表者はやりやすい



令和4年度の方向性（まとめ）

- ◆基本的にはオンライン開催，感染症の状況により，参集での開催も検討する。
- ◆感染症の状況に応じて，参加者の業務負担，事務局側の人員等を踏まえた上で，全体会議・圏域会議（4エリア）・アドバンス会議を開催する。
 - * 圏域会議は，負担軽減に取り組み，丁寧に検証しながら，徐々に中圏域（7エリア）に広げていく
- ◆感染拡大時は，圏域会議を第一優先として，状況に合わせて，回数を減らすことも検討する。

◆検討課題（次回部会で検討）

- ・ ワールドカフェ方式の導入（グループワーク毎にメンバーを変更して多くの人と話せるようにする）
- ・ 業務上関わりのある近隣市の事業所の参加
- ・ 部会員，事務局の負担軽減に向けた取組み（進行役・書記の役割等）

<報告> 意思決定支援 支援者向け研修（eラーニング）進捗

コロナ禍で集合型研修が実施できない中でも、本人の意向を尊重した医療・介護ケアをおこなうために、**意思決定支援 eラーニング教材**の作成を進めています。

■目的

- ・意思決定支援とはなにか理解することができる。
- ・意思決定をすること、専門職が支援することの必要性・大切さを理解することができる。
- ・日々の支援の中で、各職種ができることを知り、実践につなげることができる。

■対象

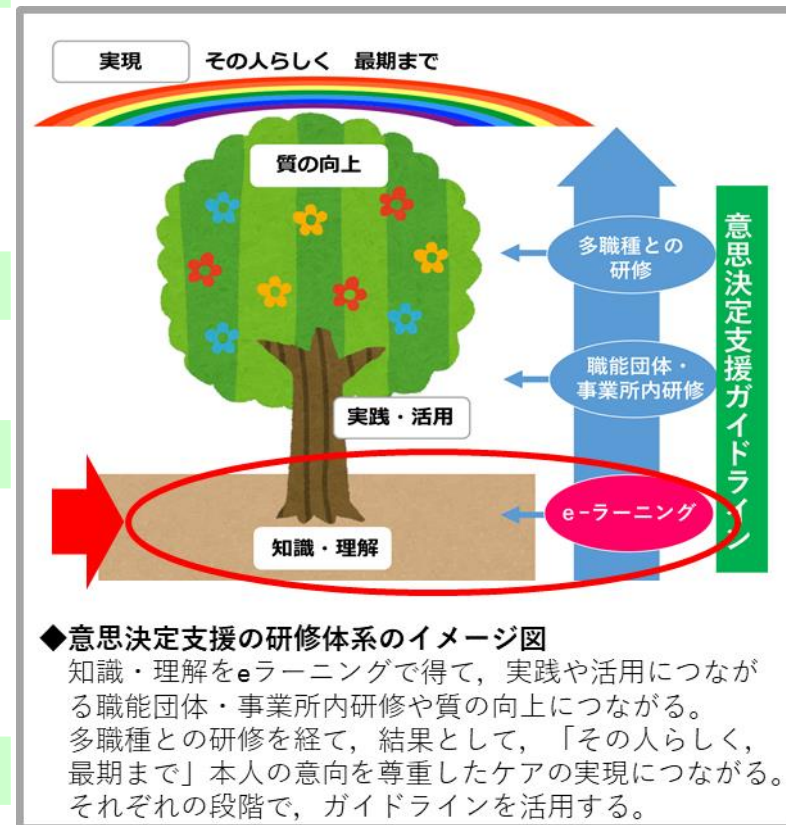
- ・柏市で働く医療・介護の専門職
(特に意思決定支援の経験が少ない方)

■コンセプト

- ・意思決定支援ガイドラインをベースに作成する。
- ・職種や、理解度を問わず受講できる。
- ・簡単にアクセスできる。(柏市HPに公開)
- ・短時間で受講できるよう、いくつかのコンテンツに分けた構成とする。
- ・実際の支援の場面を映像やイラストで紹介することで、実践につながる内容とする。

■活用方法

- ・柏市ホームページに限定公開（URLを通知した専門職のみ閲覧可能）
- ・事後アンケートを実施して、効果を検証。



導入編
(5分)

- ・意思決定支援とはなにか
- ・社会的背景について
- ・どうして意思決定支援が必要なのか
- ・本人や家族に対する効果と、専門職にとってのメリット

事例からの学び

在宅編		施設編	
～Tさん 老衰看取りの場合～		～特養での看取りの場合～	
ケース紹介 (5分)	・家族構成 ・利用サービス ・支援サマリ ◆在宅編第1弾は、90歳代、老衰でお看取りまで多職種が支援をした在宅療養の事例を基に作成中。	ケース紹介 (5分)	・家族構成 ・利用サービス ・支援サマリ ◆施設編第1弾は、市内の特養施設に御協力いただき、認知症の入所者の事例を基に作成予定。
座談会 (5分)	振り返りの機会の効果 ・ケアの質の向上につながる ・多職種間の相互理解とチームアプローチの重要性への理解 ・支援者の学びの機会 動画	未定	動画
個別インタビュー (10分)	各専門職から支援のポイントを伺う ・今回の事例で心に残るエピソード ・今回の事例でうまくできたこと、うまくできなかったこと、その要因 ・意思決定支援を行う中で大切にしていること 動画	個別インタビュー (10分)	各専門職から支援のポイントを伺う ・今回の事例で心に残るエピソード ・今回の事例でうまくできたこと、うまくできなかったこと、その要因 ・意思決定支援を行う中で大切にしていること 動画
まとめ (5分)	Tさんの事例からの学びを、ガイドラインと結び付けて紹介	まとめ (5分)	事例からの学びを、ガイドラインと結び付けて紹介

実践ツール

- ・意思決定支援ガイドライン
- ・振り返りカンファレンスの進め方（例） 等

令和4年度 研修部会(案)

<第1回部会>

5月頃予定

議事：令和4年度の顔の見える関係会議の企画 など

